

四国山地 剣山(1955m) 石鎚山(1982m) 登山



(天狗岳からの石鎚山)

期 日 2021 年 (令和 3 年) 10 月 15 日～10 月 19 日

参 加 石川誠 佳子

行動

10/15 日 (金) 晴

羽田 7:40 (ANA521 便) - 9:00 高松空港 9:30-10:30 貞光駅経由 1200 見ノ越リフト 12:30

西島駅 12:50 - 13:30 大剣神社 13:40 - 14:00 剣山頂上ヒュッテ (泊)



(刀掛の松)

羽田 7 時 40 分の飛行機で一路高松空港へ四国の山アプローチに苦勞する。

土日にはバスが通じているが平日となると途中までバス、タクシーに乗り継いで行くことになるので、その乗継に苦勞し、それだけ四国の山は改めて奥深く感じた。高松空港で仕方なくタクシーで行こうと探していたところ、案内所で四国交通のバスが麓の見の越まで無料行くという。しばし耳を疑うこの世知辛い世の中に無料とは？と驚く。

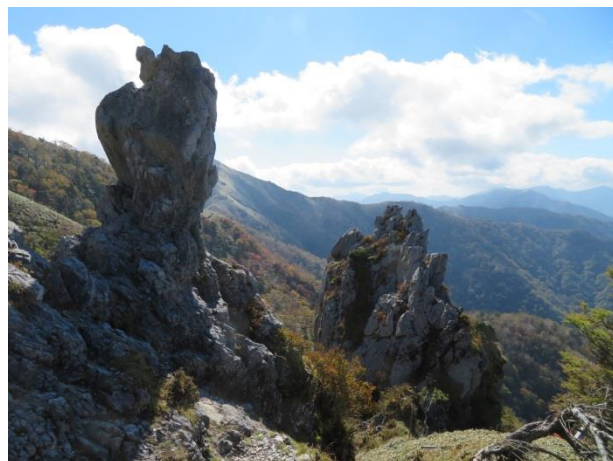
実は飛行機で剣山の日帰り登山が出来るようにキャンペーンの一環で運航しているとのことでした。途中休憩を含み2時間30分程でリフト乗り場のある見の越につく。

登山リフトで終点西島駅へ。此处からは次郎笈の山並みが青空の下望むことができた。

此处から尾根道コースと大剣コースのルートがあり、尾根道コースを辿り刀掛の松に登る。

この松から右にトラバースして、林の中を大剣神社への道を辿る。

赤い社の裏に二つの大きな岩が鎮座し、これがご神体であるとの事。



(大剣の岩ご神体)

此处からしばらく登山道をあがると剣山本宮宝蔵神社に付く。神官が法螺貝、太鼓を打ちながら祈禱して居られた。宿舎は隣にあり、剣山頂上ヒュッテとなっていた。

夜は星が瞬き、朝は美しい日ノ出を見ることができ、晴れ渡った空の下遠く瀬戸内海の光る海、山深い四国の山々を望むことができた。

ちなみに測候所として有人観測所としては、富士山と、この剣山の二か所しかなかったと言う事で、観測に適した山であることがうかがえた。

10/16日(土)晴

頂上ヒュッテ 7:00-8:20 次郎笈頂上 8:35-10:50 丸石避難小屋-11:00-13:20

奥祖谷かづら橋 15:13-大歩危・小歩危経由 18:39 阿波池田駅着 駅前宿泊

展望の良い山頂には夜中には星が瞬き、早朝からは多くの登山者が日ノ出を迎えるべく集まっていた。



(剣山山頂)

しばし、周りの山々を見て、又丸石への稜線を下ってゆく、峠にはスーパー林道からの登山道が交差している。ひと上りで丸石避難小屋に付く。

此处からは、かづら橋への下山道となる。しばし休憩して林の中の道を下ってゆく、この道は余り利用されていない様で赤い標識を見つけながら注意して降りて行く。しばし、稜線上を下るが丸石谷川の河原に向けて急な道をジグザグに降りて行く。道は細く、かれはに枯葉に覆われて急な

た。素晴らしいご来光と周囲の山々が次第に赤みを帯びて神々しく輝き感動の一瞬でもあった。目の前には次郎級の山が鎮座し、それにつながるなだらかな稜線の先には三嶺が鎮座している。

朝食を済ませ今日はなだらかな稜線伝いに次郎笈、丸石避難小屋を経てかづら橋へと降りるコースを辿る。剣山の頂上は平坦で木道で保護されている。常に前方には三嶺の雄姿を仰ぎながらなだらかな稜線散歩となる。次郎級の頂上は稜線から少し外れ、若い登山者たちが憩っている。

斜面となり、しっかり標識を見つけながら下りないと迷いそうな道で注意が必要である。瀬音が大きくなり、流れが見えてくると国体橋に降り立つことができた。

此処からしばらく溪谷沿いの道を辿る。このルートも崖崩れが起きたであろう細い道を注意しながら辿っていくと突然かずら橋のたもとに着いた。この橋は立派でかつらの蔓を組んで作られて3年に一度架け替えをしているとの事でした。その補修費用として1人550円の協力金を支払ってきた。このような文化遺産を残すことも高齢化が進み、地元の方達には大変なご苦労があるなとつくづく感じ入ってしまう。

後は地元のバスで細い山道を巧みなハンドルさばきで阿波池田に辿り着く。



(頂上で日ノ出を待つ)



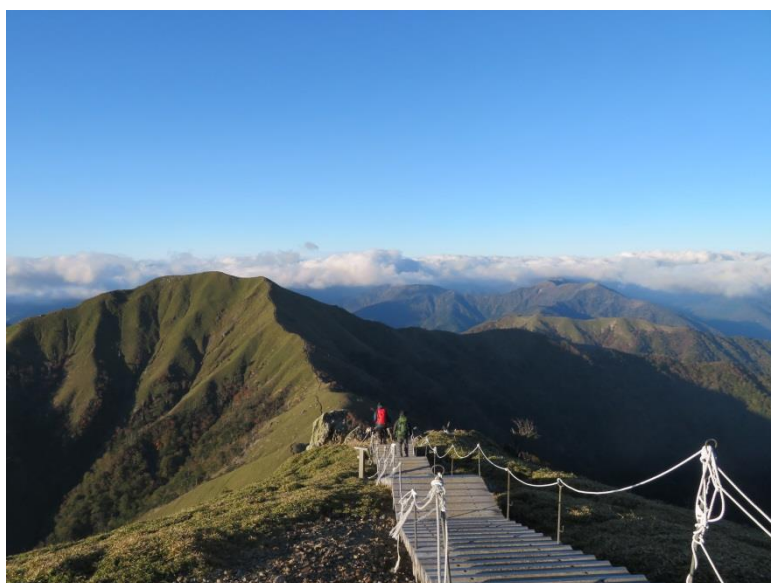
(朝もやに煙る山々)

10/17日(日) 晴・くもり・冷雨

阿波池田 8:13- 11:15 土賛線・松山駅 12:50 伊予四国バス・伊予鉄南バス乗換え・久万高原経由・16:00 石鎚土小屋 16:10・国民宿舎石鎚(泊)

今日は石鎚山への移動日でjr 四国で、阿波池田から多度津で乗換え愛媛県松山へ。ここからは、伊予四国バス、伊予鉄南バスに乗換え3時間程で石鎚土小屋に到着する。

バスを降りた頃には、曇模様の雨、風も強く早々に雨具を着て10分ほど程歩いて国民宿舎に到着する。頂上は雪だろうか。



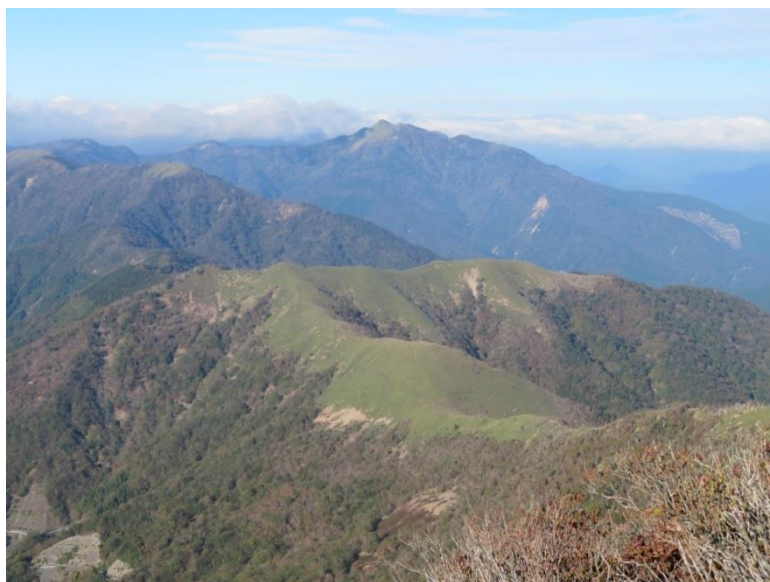
(剣山から次郎笈への稜線)



(次郎笈の頂上にて)



(次郎笈を振り返る)



(次郎笈から三嶺への稜線)



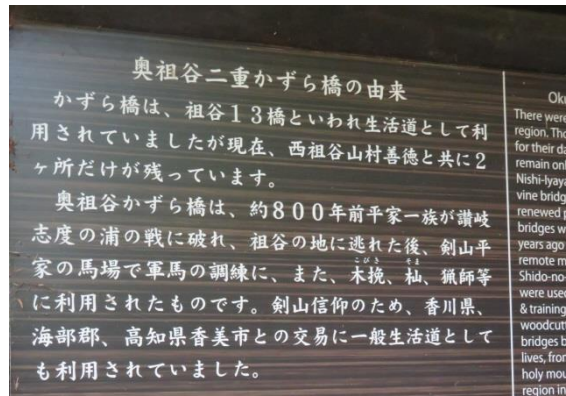
(玉石避難小屋)



(国体橋へ辿り着く)



(かづら橋を渡る)



(かづら橋の由来)

10/18 日 (月) 晴

宿舎 7:00-8:55 東稜基部 9:20-9:40 二の鎖小屋 9:50-10:25 石鎚山山頂・天狗岳往復・
石鎚山頂上 11:30-12:00 二の鎖小屋 12:05-12:30 夜明け峠 12:45-前社森・八丁経由
14:40 山頂成就社 15:00-15:10 ロープウエー下谷口 15:17 発瀬戸内バス 16:10 伊予西条駅
16:19-17:23 松山駅着 駅前ホテル泊



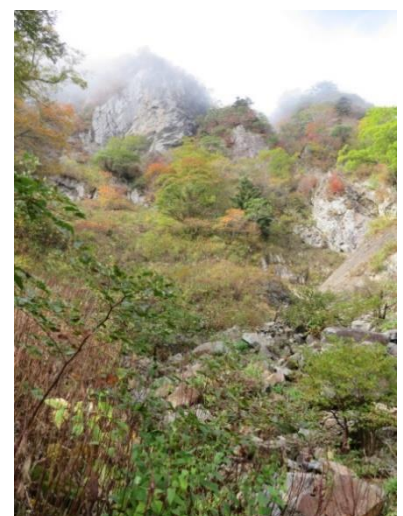
(石鎚神社・土小屋)

ここから二の鎖の上りが始まるが、鎖も冷たそうで、調子もないので、年齢と安全を考慮して横道を辿る。山の鎖もエスケー
プ、頂上付近の木々からは樹氷だろうか、溶けて水が滴り落ちていた。頂上には人気の山なのだろう 30 人位の人達が休んで
いた。石鎚本宮をお参りして、日々の生活と安全登山の感祈願
をする。

(沢沿いに石鎚を仰ぐ)

心配した天候も、朝のうちは霧で見えなかったが、なだらかな登山道を進むうちに段々と
青空も広がり、石鎚山の岩壁も見えてくる。この頃になると早朝登山をした登山者も下ってきたが、頂上は濃霧で天狗岳さえも見えなかった
と言っていた。

二の鎖小屋へのトラバースを終えると鳥居が迎えてくれている。



心配していた天候も 360 度の展望で晴れ渡り、目の前には写真で見えていた天狗岳が紅葉に彩られ聳えていた。最初は 79 歳という年を考え躊躇したが、天狗岳へのルートにチャレンジし、頂上往復することができた。確かにルートの的には左右とも切れ落ち、ナイフリッジの部分もあり、ホールド、スタンスも細かい部分も見受けられたが注意して行けばどうとあったことはなかった。



(頂上から西の冠岳への稜線)



(天狗岳への稜線)

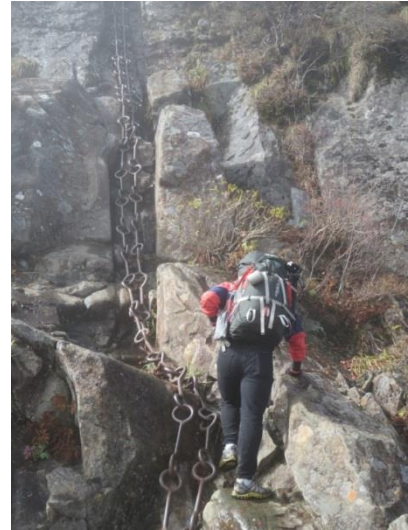


(石鎚山山頂)

頂上からの周囲の山々は絶景であり、本当に四国は山深い処だなと感じた。昼食を食べて頂上を後にする。表参道成就コースの道を探る。鉄はしごが掛かった高度感ある鎖場の捲き道を、夜明峠、剣山、八丁坂鞍部へと下り、登り返して石鎚神社成就社へと辿り着いた。今日中に松山に下る予定なので、つづら折りの道を下り、ロープウエーで下谷口へのバス停へと急ぐ。伊予西条の駅では jr 四国の特急に乗り換え勝手知ったる四国松山駅に到着根駅前の宿に入って、四国での一連の登山活動を締めくくった。ご苦労様でした。



(天狗岳から下の稜線)



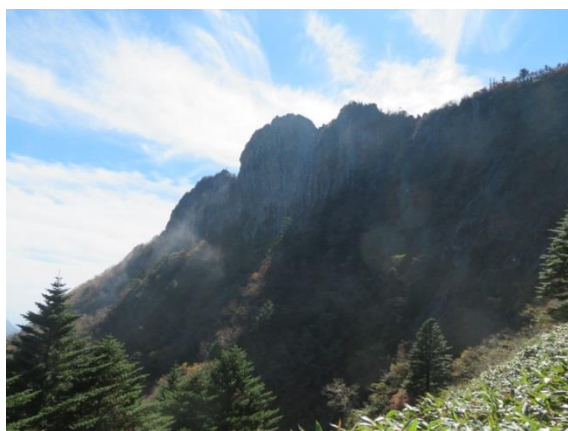
(二の鎖場)



(ためしの鎖場)



(青空の下紅葉)



(天狗岳を仰ぐ)



(成就社に辿り着く)



(素晴らしい絶景天狗岳)

10/19 日（火）晴

松山駅 9:55-10:15 松山空港 11:50（ana59 便） 13:15 羽田空港-京急で帰宅

ゆっくり朝食を食べてリムジンバスで、松山空港へ、当日売りのシニアチケットを購入して、夕方に自宅に帰還する。机上では、明日の天気を予測する様に雲の中をエアポケットに揺さぶられながら無事羽田に付き、夕方自宅に帰還する。

翌日の天気は予想通り全国的に冷たい雨が振り、石鎚山に初冠雪とのニュースを報じていた。やっと四国の山に行くことができた。歩ける内に次は何処の山へ、年齢は待ってくれない。